

令和3年7月19日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

トビイロウンカの防除対策の徹底について

昨年と一昨年、県内各地でトビイロウンカによる坪枯れが多発し、甚大な被害となりました。本年産水稻については、苗箱施用として長期残効性のトリフルメゾピリム含有薬剤が多く使用されています。しかしながら、早植えの水稻などではトリフルメゾピリム含有薬剤の残効がなくなり、トビイロウンカの増殖が懸念されます。

本年7月11日には、豊後大野市三重町赤嶺に設置している予察灯で、セジロウンカが12頭初誘殺されトビイロウンカも飛来した可能性が高いと思われます。

トビイロウンカの今後の発生状況に十分注意する必要があることから、7月9～11日の飛来を想定して、有効積算温度から求めた防除適期を予測しましたので、今後の防除対策の参考にしてください。

1 トビイロウンカ防除適期の予測

表1 予測されるトビイロウンカの防除適期(7月9～11日飛来)

地点	防除適期 (第一世代幼虫)	防除適期 (第二世代幼虫)
国見	7/27 ~ 8/9	8/25 ~ 9/8
中津	7/27 ~ 8/9	8/26 ~ 9/10
豊後高田	7/27 ~ 8/9	8/25 ~ 9/8
院内	7/28 ~ 8/11	8/29 ~ 9/13
杵築	7/28 ~ 8/11	8/28 ~ 9/13
武蔵	7/30 ~ 8/12	8/30 ~ 9/12
日田	7/27 ~ 8/9	8/25 ~ 9/8
玖珠	7/29 ~ 8/11	8/30 ~ 9/14
湯布院	7/30 ~ 8/14	9/3 ~ 9/21
大分	7/28 ~ 8/9	8/26 ~ 9/8
犬飼	7/28 ~ 8/10	8/27 ~ 9/11
竹田	7/30 ~ 8/12	8/31 ~ 9/15
佐伯	7/28 ~ 8/10	8/27 ~ 9/10
宇目	7/30 ~ 8/12	8/31 ~ 9/15
蒲江	7/28 ~ 8/10	8/27 ~ 9/10

※1 飛来予測日(7月9～11日)は、JPP-NET病害虫発生予測データベースーウンカ飛来予測システム(トビイロウンカ、(一社)日本植物防疫協会)及び気象再解析データを元に解析した。

※2 発育ステージに基づくトビイロウンカの防除適期は、飛来予測日(7月9～11日)を起点として、JPP-NET病害虫発生予測データベースー有効積算温度計算シミュレーションver.2及び各地点のアメダスデータ平均気温(7月18日までは本年度実測値、7月19日以降は平年値)を元に予測した。なお、予測の際に用いた有効積算温度及び発育下限温度は、表2を根拠とした。

表2 有効積算温度及び発育下限温度

ステージ	有効積算温度(日度)	発育下限温度(°C)
成虫	125	12.0
卵	135	11.4
幼虫	250	6.5

表3 トビイロウンカの発生時期別様防除水準

発生時期	要防除水準(成幼虫)
7月上旬 ～ 8月上旬	2頭/10株 (0.2頭/株)
8月中旬 ～ 8月下旬	10頭/10株 (1頭/株)

2 巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況

(1) 6月14～18日(通常巡回調査)

早期水稻調査 10 圃場のうち微発生が2圃場で確認された。6月の巡回調査で本種が確認されたのは平成25年(微発生4圃場)以来であり、平年より早い時期に確認された。普通期水稻調査 40 圃場のうち調査可能な 10 圃場ではトビイロウンカは確認されなかった。

(2) 6月29～30日(トビイロウンカ緊急調査)

早期水稻調査 10 圃場のうち微発生が3圃場で確認された。普通期水稻 38 圃場ではトビイロウンカは確認できなかった。

(3) 7月13～16日(通常巡回調査)

早期水稻調査 10 圃場及び普通期水稻 39 圃場ではトビイロウンカは確認できなかった。

3 防除上の注意事項

(1) 薬剤散布については、農薬使用基準(使用量、使用時期、使用回数等)

を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>

